

施設の管理運営に関する専門部会における検討の方向（案）

○国立大学等に求められる施設水準について

- ・ 国立大学法人は、教育研究の基盤として、また経営資源として適切な施設を保持することが重要である。（経営規模に応じた施設計画，等）
- ・ 国立大学法人は、施設の整備及び管理運営に関し、画一・受け身から自立・創造へと発想の転換を図り，自らが施設水準を設定するとともに，経営的視点からメリハリのある施設づくりが必要である。

（施設水準検討の視点）

- ・ 国立大学法人は、施設の管理運営において，クオリティ，スペース，コストの3つの観点から施設水準を検討
- ・ 安全性，環境への配慮，バリアフリー等の基本的機能を確保
- ・ 学生・研究者，大学管理者の視点から，施設の整備及び管理運営に係る水準を検討

1 教育・学習関係施設

1) 基本的な留意事項

- ・ 教育の多様化への対応（施設・設備の高機能化，等）
- ・ 学生の主体的活動（学習，調査，ディスカッション）への対応
- ・ 生活機能の向上（学生食堂，休憩場所，学生寮，等）

2) 主要室の構成と機能

- ・ IT化に対応した講義室
- ・ 学生が滞在できる環境（パソコンが使える学習スペース，カンファレンススペース） など

2 研究関係施設

1) 基本的な留意事項

- ・ 研究内容に応じた機能と必要面積の確保
- ・ 安全性の確保
- ・ 研究内容の変化への対応（適切な階高と設備スペース，等）
- ・ 共同研究への積極的対応（異分野の研究者の交流スペース，等）

2) 主要室の構成と機能

- ・ 実験室（化学，生物，等）と管理諸室（実験機材，薬品及び廃棄物，等）
- ・ 研究室，ディスカッションスペース など

3 管理運営面から検討すべき事項

- ・ 省エネルギー対策，維持管理の容易さ など

○大学経営に資する施設の管理運営について

- ・ 国立大学法人にとって、自らの資産である施設を有効に活用し、将来にわたって良好な状態を維持していくことは、大学経営における重要な課題である。
- ・ 国立大学法人が、施設の現状を客観的に把握するためには、施設の諸元を数値化し、施設水準等に関する判断材料として活用できるベンチマークシステムの導入が必要である。

1 経営的視点に基づく戦略的な施設運用

- ・ 施設マネジメントを一層推進するためには、学内における全学的な体制づくり、大学経営における明確な位置付けなどについて再度アピールが必要
- ・ 従来の整備中心の施設長期計画に加え、新たに中期計画に対応するキャンパス全体の施設マネジメント計画の策定が必要
- ・ 国立大学法人においては、渡し切り経費となる運営費交付金の学内配分において、適切な維持管理費を確保し執行することが重要

1) 資源の効果的配分と管理

- ・ 資産価値の維持及び付加価値の付与
- ・ 適切な学内予算の配分
- ・ スペースの配分 など

2) 管理運営コストの適正化

- ・ 施設に係るトータルコストの縮減
- ・ 耐用年と効果的な改造 など

3) 国費の充当に対する国民の理解と支持

- ・ 費用対効果の徹底と情報公開 など

2 経営判断の基礎となる施設の管理運営に関するベンチマークの検討

- ・ 国立大学法人が、自らが所有する施設の状況を客観的に把握するためには、ベンチマークの必要性や導入効果を検討した上で、有効な指標の選定や評価方法を示すことが重要

1) 目的・用途に応じた施設の質の確保に関するもの

- 例 高機能or多機能or標準的機能（天井高さ、床荷重、給排気、電気容量、等）
安全性（学生数とドラフトチャンバーの数、緊急シャワーの設置率、等）
学生・研究者等のユーザーの満足度（美観、利便性、等） など

2) スペースの有効活用に関するもの

- 例 一人当たり面積（不足・超過）、稼働率
学習スペース、交流スペース等の構成比率
適切な設備スペース など

3) 施設に係るコストの縮減に関するもの

- 例 光熱水料、維持管理費、修繕費、清掃費 など